

1 日時：平成27年2月3日(火) 午後16時00分～午後17時15分

2 場所：大阪府立清水谷高等学校 校長室

3 協議会委員：

委嘱委員

(敬称略)

近畿大学 教職教育部 教授	田中 保和
東大阪市立新喜多中学校長	小田 昇司
平成26年度 清友会理事	小林 裕子
平成26年度 清援会長	林 宏匡
平成26年度 PTA会長	井筒 記美恵

校内出席者

校長、教頭、事務長、首席2名

※記録：首席

4 協議：

I. 学校長挨拶

II. 協議

ア. 平成26年度学校教育自己診断 集計結果について

- ◆ 首席より学校教育自己診断の集計結果を報告
〔委員からの質問意見〕
- 項目「悩みなどがあるときに相談したいと思う先生がいる」について
小中から相談体制が十分でなく、先生ではなく他の人に相談している。学校では
相談できないという意識ができています。先生の問題というよりも、今までの子
も達の経験に起因するのではないかと。
- 中学校では80%を超えたら肯定的であると判断をする。清水谷高校は満足度が
とても高い。
- 入試(特に前期で)倍率が高くなり満足度が上がったとも考えられる。

イ. 平成26年度学校経営計画及び学校評価(案)について

- ◆ 校長より説明。
〔委員からの質問意見〕
- 評価指標の数値にはあまり意味はなく、自己評価はすべて○や◎でよいのでは
ないかと。
- 授業に対する工夫の数値が年々上昇していることは、非常によいことである。
- 肯定率がある程度高くなると、上昇をめざすことが難しくなる。維持することの
重要性ということもあるのではないかと。

ウ. 平成27年度学校経営計画について

- ◆ 校長より説明。
- ◆ 「毎日家庭学習をしている」項目について『毎日』、『家庭学習』ということについて考えていきたい。
- ◆ 「悩みを相談したい先生がいる」について
- ◆ 「人権教育」知識・スキル面のみならず自己肯定感も人権教育の大切な要素であることを伝えたい。
- ◆ 「授業や評価を検討する機会」として授業公開を更に進めていきたい。大学入試センター試験に代わる新テストでも謳われている「融合問題」にむけて、教科を渡っての見合いを考えたい。
- ◆ 「わかりやすい授業」から「面白い授業」へ学びたいという気持ちを持たせる授業構築をめざしたい。
- ◆ アドミッションポリシーとのかかわりで、「目標を自ら見出し、他者と協働しながら自らを内破していく力」を身に着ける学校でありたい。
- ◆ 世代交代を意識しつつ、校内体制を考え、若い教師の将来像を考える。

〔委員からの質問意見〕

- 教科書はあるがプリントを自作し脱線しながら授業を進める教師がいた。面白くその教科がとても好きになった。
- 中学校では、まさに世代交代の最中で、校長先生はいつも若い先生と話し込んでいる。また、ミドルリーダーの育成も問題である。
- まさに中学校現場がイメージしている清水谷高校であった。質実剛健というか色んなことに頑張る昔ながらの高校で、教員・生徒・保護者が一体となっている。今問われている学力観を、どのように実現していくかだ。
- 想像力を持った生徒を育てる学校であってほしい。
- 子どもの貧困の問題もあり、家庭が学習できる環境にあるかどうかも問題で、真の「自学自習」できる生徒を育てることをめざしてほしい。
- 昔ながらの普通科高校として、「来てよかった学校」であり続けて欲しい。
- アドミッションポリシーの観点からも、今後議論を進めていきたい。

Ⅲ 校長謝辞及び平成27年度学校協議会について

議事終了 17:15

以上